

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問四（出典：『堤中納言物語』）

◎品詞分解（非活用語は初出のみで、名詞は基本的に非表示。同色の助詞は同内容であることを示す。）

長月格助(体修)の格助(体修)有明格助(体修)の格助(体修)月に格助(体修)誘は格助(体修)れて、蔵人の少将、指貫シクつきシクぎシクしくシク引きシク上げて、格助(体修)ただ一人小舎人童格助(体修)ばかり具サ変(用)して、格助(体修)やがて、朝霧格助(体修)もよく立ち隠格助(体修)しつへく、隙ナリなげナリなる格助(体修)に、「をかしからむ所格助(体修)の空カ四(用)きたらむ格助(体修)もがな」と言格助(体修)ひて歩マ四(用)み行カ四(用)くに、木立シクをかシクしき家シクに、琴ナリの聲ナリほナリのかナリに聞ヤ下二(用)こゆる格助(体修)に、いみじシクうシクれシクしくシクなりて、「巡ラ四(用)る門シクの脇シクなど、崩格助(体修)れやある」と見マ上(用)けれ格助(体修)ど、いみじシクく築シク地シクなど全ク(体修)きに、な副かなかわシクびシクしく、「いナリかなナリる人格助(主格)の、か副く弾カ四(用)き居ワ上(用)たるワ上(用)ならむ」と、わりクなくクゆクかクしクけれクど、すサ変(終可能)べき方ヤ下二(未接助)もおヤ下二(未接助)ぼえヤ下二(未接助)で、例格助(用修)の、声サ四(未使役)出サ四(未使役)だサ四(未使役)させ格助(用修)て、随ラ四(用)身ラ四(用)に格助(体修)うたハ四(未使役)はせ給使役(用尊)ふ。

行く方カ四(用)も忘ラ下二(未接助)るるラ下二(未接助)ばかり朝カ四(用)ぼらカ四(用)けカ四(用)ひカ四(用)きカ四(用)とどむカ四(用)めるカ四(用)（※1）琴カ四(用)の聲カ四(用)かな終助

※1：「めり」は「推定（視覚）」と「婉曲」の二つの意味を有するが、受験界限ではあまり区別を意識しない。
ただし、今回は文中用法で、直下に名詞「琴の声」が続くことから、婉曲を優先した。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）